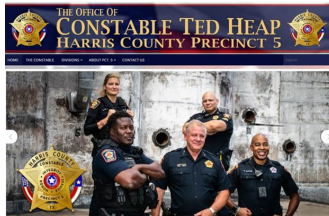


「警察」の電話番号は911?

米国で警察への緊急通報といえば911というのは既にご存知かと思いますが、日本語で「警察」にあたる組織が米国にはいくつもあるのは知っていますか。例えば映画やテレビなどで、Police, Marshal, Sheriff, Rangersなどの単語を耳にしたことがありませんか。成り立ちの歴史や各州での制度が異なる上、州だけではなく、郡、市、自治体が警察組織を編成している場合もあり、それぞれが互いに協力や役割分担をしている為、米国では一口に警察といっても実に複雑な作りになっています。

ここヒューストンで911に対応しているのはヒューストン市管轄のHouston Police Department (HPD)です。911で受け付けた事件・事故はプライオリティ1から4に分けられ、それぞれの緊急度により対応・処理されます。例えば交通事故だけが人がおらず、相手とのトラブルもない場合などはプライオリティが低くなり、その為911に電話をしたものなかなか警察官が事故現場に来てくれない、といったことが起こります。そのため、HPDでは911の他に緊急ではない場合の電話番号(713) 884-3131を設けています。911は基本的に緊急通報のみ。命の危険があるかどうかの一つの目安と覚えて下さい。

今回はもう一つ、緊急ではない場合の連絡先として皆さんの生活に身近なハリス郡のConstable(コンスタブル・保安官)をご案内します。ハリス郡では現在8名のConstableがそれぞれ8つの管区(Precinct1~8)を管轄しています。彼らは地域住民に選挙によって選ばれ、地域の治安維持を目的とし、法律の執行と同時に地域密着の様々なサービスを行っています。例えば商工会事務局・図書館のある三水会センターエリアはPrecinct 5のTed Heap保安官の管轄となっていますが、ここでは女性の為の護身術教室 (R.A.D. Women's Self Defense)、長期旅行中の



家周辺パトロール(Vacation Watch)、スピードチェッカーの取り付け(Speed Trailer Request)などをオンラインにて受け付けています。他のPrecinctでもチャイルドシートの装着チェック、ティーンの為の安全運転講習、また、面白いサービス(?)ですと、「Coffee with a Cop」といって保安官と一緒にコーヒーを飲みながらお話をする機会なども設けています。(現在は残念ながらCOVID感染防止の為一時的に行われていないようです)。

彼らは地域のパトロールも積極的に行っており、軽度の交通事故の場合でも、現場に比較的速く来てくれる傾向にあるようです。皆さんもSeiwaマーケットの駐車場に停車している車両と言えば思い浮かぶのではないのでしょうか。どうぞこの機会にハリス郡HPよりお住いのエリア管轄のConstableを調べ、直通電話番号を携帯にご登録ください。



体験談 & アドバイス

★ 車に乗ろうとしたら5歳くらいの女の子が寄ってきて、食べものが欲しいと。日用品しか買っていないと伝えると、お金が欲しいと。周りを見渡すと、母親らしき女性が少し離れたところから様子を見ています。常駐のポリスが来て対応してくれて帰れました。

💡 出かける先と時間帯に気をつけて。治安に懸念がありそうな場所には、1人では行かない。駐車も見晴らしがよい所に、鞆などはきちんと閉め、買い物は最短で済ませ、乗車後はすぐ車を出しましょう。

★ メモリアルシティモールで起きた爆竹事件に遭遇しました。あとから爆竹だったと判明しましたが、その時は銃撃事件だとみんなパニックになり、すごい人の流れで、怪我人が出ました。その日はモールが立ち入り禁止になり、みんな車を置いて走って逃げたのですが、後にやはり、その車からの盗難等も起きた様です。

💡 人が集まる所にはできるだけ行かない、車内には見える所はもちろん、トランクなどにも金目のもの置いたままにしないよう気を付けて。

ヒューストン 日本語補習校

生きる力の基礎として『三つの自立を養うこと』を目指す幼稚部教育 ～ 学びの自立・生活上の自立・精神的な自立 ～

2018年度から完全実施されている新幼稚園教育要領では、21世紀に求められる幼児教育のキーワードとして『学び』が掲げられ、幼児教育では子供の主体的な遊びや活動を通して自ら学ぶ姿を支えることが求められています。ここ数年、国内外の幼児教育施設において小学校教育内容にまで踏み込んだ早期教育に傾倒する姿が見られ、幼児教育が「何を学ぶか」ではなく、「何を教えるか」を重視する傾向にありました。又、スムーズな幼・小連携が図られず、小1プロブレムなる課題も見られていました。この傾向は本校幼稚部にも一部の指導内容に見られるものであり、補習校における限られた活動内容を指導していく上で、子供の発達段階や実態に合わないという課題が見られていました。新しい教育の方向性は、遊びや活動を通した学びの大切さが強調されており、その具体的な姿として『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のイメージ』であり、10の視点を掲げています。要約すると、『三つの自立を養うこと』につながると捉えています。

- 1. 学びの自立**(思考力・判断力・表現力等の基礎)
自分にとって興味・関心があり、価値があると感じられる活動を自ら進んで行うとともに人の話などを聞いて、それを参考にして自分の考えを整理したり、さらに考えを深めたりして、自分の思いや考えなどを適切に表現すること。
- 2. 生活上の自立**(知識及び技能の基礎)
生活上必要な習慣や技能を身に付けて、身近な人々、社会及び自然と適切に関わり、自らよりよい生活を創り出していくこと。
- 3. 精神的な自立**(学びに向かう力・人間性等)
自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもつことで、将来における自分自身の在り方に夢や希望を持ち、前向きに生活していくこと。

この「三つの自立」は本来、日本の幼児教育が大切に育んできた「心情・意欲・態度」であり、さまざまなことを感じたり、意欲的に粘り強く取り組んだり、難しいことにチャレンジしたりすることなどが含まれています。これらは非認知能力と言われるものです。そこで、本校幼稚部でも新幼稚園教育要領に基づき、従前のカリキュラム内容を見直し、2022年度より新カリキュラムによる指導を行うことにしています。保護者の皆様方のご理解とご協力を得ながら、『自ら未来社会を切り拓き、グローバル社会づくりに貢献できる子供』を育てていきたいと考えています。2022年度の幼稚部園児募集要領は以下のようになっています。よろしく願いいたします。

幼稚部園児募集要項

- 説明会案内 8月 6日
補習校だより『アメリカンドリームNo14』
- 希望受付 9月 1日～
受付と同時に、入園説明会参加者となります。
- 説明会 10月 2日 19:00～
(リモートにて開催)
- 面接 12月11日 13:30～
- 合否連絡 1月末

※本年度までの募集期間と異なり、2ヶ月ほど早まった募集日程となっていますので、ご注意ください。

(文責: 井手 登士昭校長)

